

仙人通信 125 茂来山(1717 m)

茂来山は佐久から秩父に向かう国道 299 号の日向地区の南に鎮座した山で、昭和 57 年浩宮様が登った事が報道され、よく知られた山である。

2つの台風が去り、天候が安定すると思い、霧久保沢の林道のゲート前の駐車場(1050 m)からのピストンをすることにした。

唐松の紅葉が始まり、白いノギク・黄色いヤクシュ・大きな黄色い花卉のハンコンソウが林道を飾る。ゲートには熊出没注意の札が付けられ緊張した山登りだ。瀬音を聞きながら林道を 15 分程進むと、広場があり登山口(山頂まで 2000 mの表示)である。

登山道に入ると栃の大木(こぶ太郎)まで 1080 mと道標があり、緩やかなコースである。緑の苔が覆った石の間を流れる沢の瀬音と小生のカーウベルの音しかない、静寂なV字状の谷を約 30 分進むと『こぶ太郎』だ。この大木は沢の中央に、見学のデッキや案内板まで準備されている。幹の回りに幾つものこぶを付けた巨木で、青空にさしずめ両手を広げているようだ。これより先は、沢の中央を登るコースとなる。栃・ブナ・胡桃・白樺等の木々の間を直登する感じである。近くには、花が終わったトリカブトが鞘状の実を結んでいる。足元は大小の岩に台風で舞った木葉が積り、昨晚までの雨で濡れて足跡も無い。空とか尾根は望めず、目先の赤いリボンの道標を頼りにルートを決め、積もった木葉をストックで払いのけて足元を確保してから一歩ずつ進む急登りである。岩は石英閃緑岩である。隣の四方原山は安山岩であり、山の成り立ちを考えさせられる。

赤く紅葉したヤマモミジやブドウの葉が一面に引き詰められ、払い除けるのが惜しい！。『こぶ太郎』から 40 分位進むと、車を止めた先の山肌を削る削岩機の音と展望も開けてきた。更に 20 分で、槇沢からの登山道と合流する尾根である。浩宮様が登ったコースだ。梢越しに浅間山のスロープが望め、15 分程で山頂である。雨でうな垂れた真っ赤なナデシコが2輪、山頂直下で待って居てくれたようで、嬉しさがこみ上げた。赤く紅葉した木々の中、たった1人・山頂で憩うて居ると、牡鹿の鳴き声やシジュウカラの群れが飛来だ！。上空は青空であるが、浅間山はほぼ雲の中である。北側には、赤城・榛名・妙義が、西には、八ヶ岳は赤松の枝で望めないも、千曲川の先に独鈷山・蓼科山・北横までが望める。南側は先に登った御座山があるのだが、雲の中である。東は十国峠までは確認出来た。ところでこの地は鉄平石・白石・恐竜の足跡等で有名な白亜系の山中地溝帯が佐久の日向から国道 299 号に沿い、秩父の男鹿野まで約 40km・幅3kmで続き、南北に 50 本もの断層が走る特異な地である。この端には先に登った諏訪山・両神山もある。

帰路は、国道 299 号(十石峠)を松山まで紅葉を満喫してのドライブができました。休憩入れて 4 時間強・17000 歩の山旅を楽しみました。(h 26. 10. 16)

こぶ太郎



浩宮登山記念



山頂の紅葉

